

環境法

北村喜宣

2015年9月発売/278頁/本体1800円+税
A5判/並製



編集
担当者
から

「環境問題」は、私たちに身近で、真剣に考えなければいけない大事な問題です。報道でもたびたび目にしますし、テレビドラマなどでもよく取り上げられています。では、環境法はいったいどうなっているのでしょうか？ 実は沢山の法律が集まって環境法を作っています。本書「法令略語表」と7頁の図を見てください。見比べていただくと本書のわかりやすさを実感していただけるのではないのでしょうか。

本書は全部で12章です。4章までで考え方の基本や大枠を解説し、5章～9章では個別の問題に即してより具体的に考えます。そして、10章以降はさらに法律の本らしい内容になっていきますが、心配はいりません。全体としてストーリー仕立てになっていて、初めて環境法を学ぶ方でも抵抗を感じないよう書き上げられています。それに「国立のマンション」や「まことちゃんハウス」の写真（著者撮影）等、問題点をリアルに想像させる仕掛けも満載です。環境法の世界を楽しく旅していただけたらと思います。（YF）

Point!



オリジナルの図表、興味深いコラムなど、写真以外の工夫も充実しています。

〔目次〕

- 第1章 環境法って、一体……
- 第2章 環境法物語
- 第3章 環境法の目標と基本的考え方
- 第4章 環境法の基本的メカニズム
- 第5章 都市景観管理で考える
- 第6章 自然環境管理で考える
- 第7章 水環境管理で考える
- 第8章 廃棄物処理で考える
- 第9章 環境アセスメントで考える
- 第10章 執行は現場でされている
- 第11章 環境問題が国境を越える
- 第12章 環境紛争を考える

の見方です。

法解釈も法政策も、どちらも世の中をより良くするためのものであり、ともに法学の重要な内容なのです。そのうちでも、法政策を駆使して社会の変化に機動的に対応する時代先駆的的分野、それがこれから学ぼうとする環境法なのです。

【環境法と「サッカー-日本代表」と】

「環境法の正体」について、少し考えてみましょう。たとえば、「サッカー-日本代表」を思い浮かべてください。「サッカー-日本代表」なんていう名前の選手はいませんね。ワールドカップの代表選手枠は23人ですが、そのなかに含まれる個別の選手について、「あの人は日本代表だ」といっているのです。また、代表は、選手ばかりではありません。監督もいればコーチもいます。トレーナーだって欠かせない存在です。こうした人たちのすべてが「サッカー-日本代表」です。

環境法にもいろいろな個別法があります。個別法全体を指称するような機能を持っている監督のような法律もあります。基本法という名称がついているものがそれです（例：環境基本法、循環基本法、生物多様性基本法）。環境法にも、公害防止系とか自然保護系とか廃棄物・リサイクル系とか、いくつかの分野がありますが、それぞれの分野において、環境に影響を与える活動をする人の行動を制御するための法律があります。フィールドプレイヤーのようなものですね。たとえば、公害防止系なら水質汚濁防止法、自然保護系なら自然公園法、廃棄物・リサイクル系なら廃棄物処理法があります。これらの法律は、授業や実務においては、とりわけよく参照されるもので、いわば環境法のレギュレーション



環境法を構成する法律群 ● 7